

東京大学史料編纂所 一般共同研究
「琉球王府発給文書の基礎的研究」シンポジウム

琉球史料学の船出

日程:2015年12月12日(土)
12時30分開場、13時開始

会場:沖縄県立芸術大学 大講義室
(当蔵キャンパス、一般教育棟3階)
住所:沖縄県那覇市首里当蔵町1-4
(モノレール首里駅より徒歩10分)

古文書に記された文字は、活字の史料集に翻刻され内容を知ることができます。ですが、文化財としての古文書が持つ歴史情報はじつに豊富で、文字のほかに様々なことを私たちに教えてくれます。

このたび東京大学史料編纂所の一般共同研究「琉球王府発給文書の基礎的研究」では、平成26年度から27年度にかけて、島津家文書に含まれる琉球王府発給文書の調査を進めてきました。この調査により判明した成果を、琉球王府ゆかりの地で報告したいと思います。

活字史料では見えてこない新たな地平を目指して、琉球史研究のベースとなる、琉球史料学の帆を上げる機会となれば幸いです。

12:30～ 開場、受付開始

13:00～13:05 須田牧子(東京大学史料編纂所・助教)「趣旨説明」

13:05～13:25 黒嶋 敏(東京大学史料編纂所・助教)「原本調査の重要性」

13:25～13:55 屋良健一郎(名桜大学・准教授)「琉球の仮名表記・漢字表記」

13:55～14:25 上里隆史(早稲田大学・招聘研究員)「古琉球期の印章」

14:25～14:55 村井章介(立正大学・教授(日本古文書学会会長))「古琉球期の碑文」

14:55～15:05 (休憩)

15:05～15:35 畑山周平(東京大学史料編纂所・助教)「島津氏関係史料研究の課題」

15:35～16:05 麻生伸一(沖縄県立芸術大学・専任講師)「近世琉球の起請文」

16:05～16:35 山田浩世(日本学術振興会・特別研究員)「琉球国中山王の花押」

16:35～17:05 豊見山和行(琉球大学・教授)「言上写再論」

17:05～17:10 (休憩)

17:10～18:00 パネルディスカッション

18:00 閉会

主催:東京大学史料編纂所一般共同研究
「琉球王府発給文書の基礎的研究」プロジェクト
後援:沖縄県立芸術大学・名桜大学・日本古文書学会

※参加費無料

当日申し込みも受け付けますが、資料準備にあたり大体の参加人数を把握する必要があるため、参加ご希望の方はあらかじめ下記フォームによりお申し込みをお願いいたします。
<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/footer/seminar-entry.html>

